

米国経済・株式市場情報

FOMCの政策決定と足元の米国景気の動向

- 米連邦公開市場委員会（FOMC）は政策金利を据え置き。FOMCは1-3月期の景気減速は一時的との判断を示す。
- 1-3月期の米実質GDPは前期比年率+0.7%へ減速。天候不順や税還付遅れなど一時的要因から民間消費が低迷。
- 1-3月期は民間設備投資や住宅投資が米景気を下支え。企業景況感の改善が設備投資の回復に結び付く。
- 安定した雇用環境を背景に民間消費が底堅さを取り戻せば、個人部門と企業部門の双方が米国景気のけん引役に。

FOMCは市場予想通り、政策金利を据え置き

米連邦公開市場委員会（FOMC）は5月3日（現地時間）、大方の市場予想通り、フェデラル・ファンド（FF）金利の誘導目標を0.75-1.00%で据え置く決定を下しました。

FOMCは1-3月期の景気減速は一時的と判断

FOMCの声明文では、2017年1-3月期の景気減速は一時的と見ており、引き続き緩やかな景気拡大を予想していることが示されました。

米国の2017年1-3月期の実質GDPは、前期比年率+0.7%へ減速しました（2016年10-12月期は同+2.1%、図1）。天候不順や税還付の遅れなどの一時的要因から、民間消費は同+0.3%と低調な結果となりました。

もっとも、2017年1-3月期は民間設備投資（同+9.4%）や住宅投資（同+13.7%）が大きく伸びたことで米国景気を下支えました。2016年後半以降の製造業・非製造業の景況感改善が、設備投資の回復に結び付き始めたとみられます（図2）。

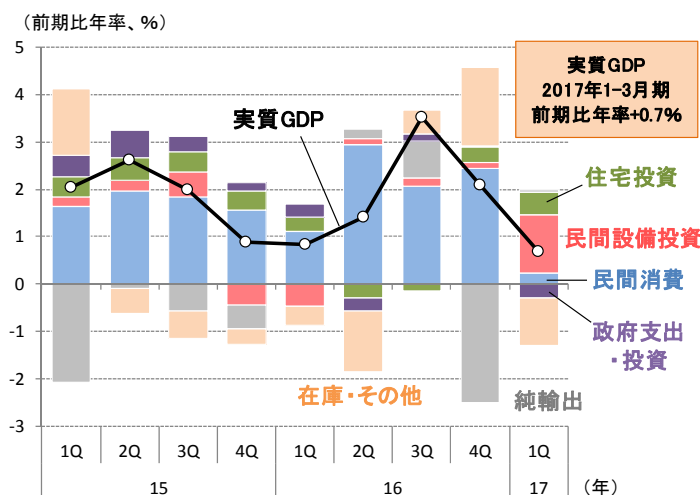
4月の雇用者数は市場予想を上回る増加を示す

5月5日に公表された2017年4月分の米雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比21.1万人増となり、市場予想の前月比19.0万人増を上回りました。また、4月の失業率は4.4%と先月の4.5%から低下し、2007年5月以来の低水準となりました。

今後、一時的要因の剥落や安定した雇用環境を背景に民間消費が底堅さを取り戻せば、個人部門と企業部門の双方が米国景気のけん引役となると期待されます。

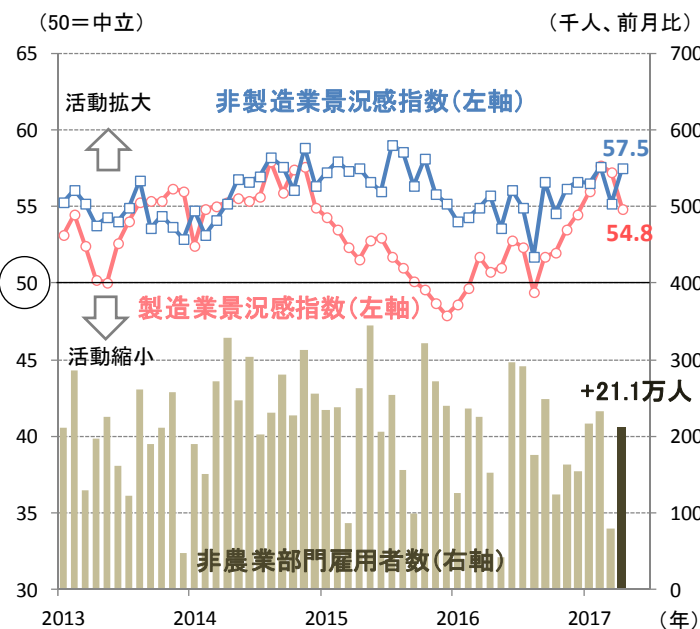
米国景気の安定を背景に、FOMCは今後も段階的に政策金利を引き上げると見込まれます。ブルームバーク集計の市場予想では、次回6月13-14日のFOMCで0.25%の利上げが実施されるとの見方が大勢となっています。

図1：米国の実質GDP成長率の寄与度分解（需要項目別）



(出所) 米商務省経済分析局

図2：米国の企業景況感指数と雇用統計



(出所) 米供給管理協会 (ISM)、米労働省
(期間) 2013年1月～2017年4月

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的としてレグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。